

12. 60万分の1北海道土壤図の編成

北海道農業試験場 農芸化学部

背景・目的

北海道を1枚の図で概観できる小縮尺の土壤図としては、これまでに北海道農業試験場の特殊土壤地帯概略図（1951, 100万分の1）および経済企画庁の土地分類図、土壤図I、北海道地方（1969, 50万分の1）などがあるが、これらはいずれも土壤分布の概略を表現したものであるため、近年の土壤調査成績、統一された分類法による精度の高い土壤図を編成することにした。

内容及び特徴

本土壤図の縮尺は、丁度北海道全体が1枚の図に収る60万分の1、対象範囲は、北海道の農牧地及び農牧適地で、土壤分類法は、北海道農牧地土壤分類、第2次案に基いたが、編成の際、必要に応じて若干の補足、改定を行なった。また、土壤図編成の資料は、主として北海道農業試験場土壤（土性）調査報告（1963～1984）によった。

本土壤図は、おおむねその中分類（23種）を色別で表示し、北海道の土壤分布の概要を容易に識別できるようにした。なお、その設色については、たとえば、褐色森林土は森林の色を象徴する緑色系統、疑似グライ土はその土色を象徴する灰色系統のように、土壤を連想し、理解しやすいように配慮した。

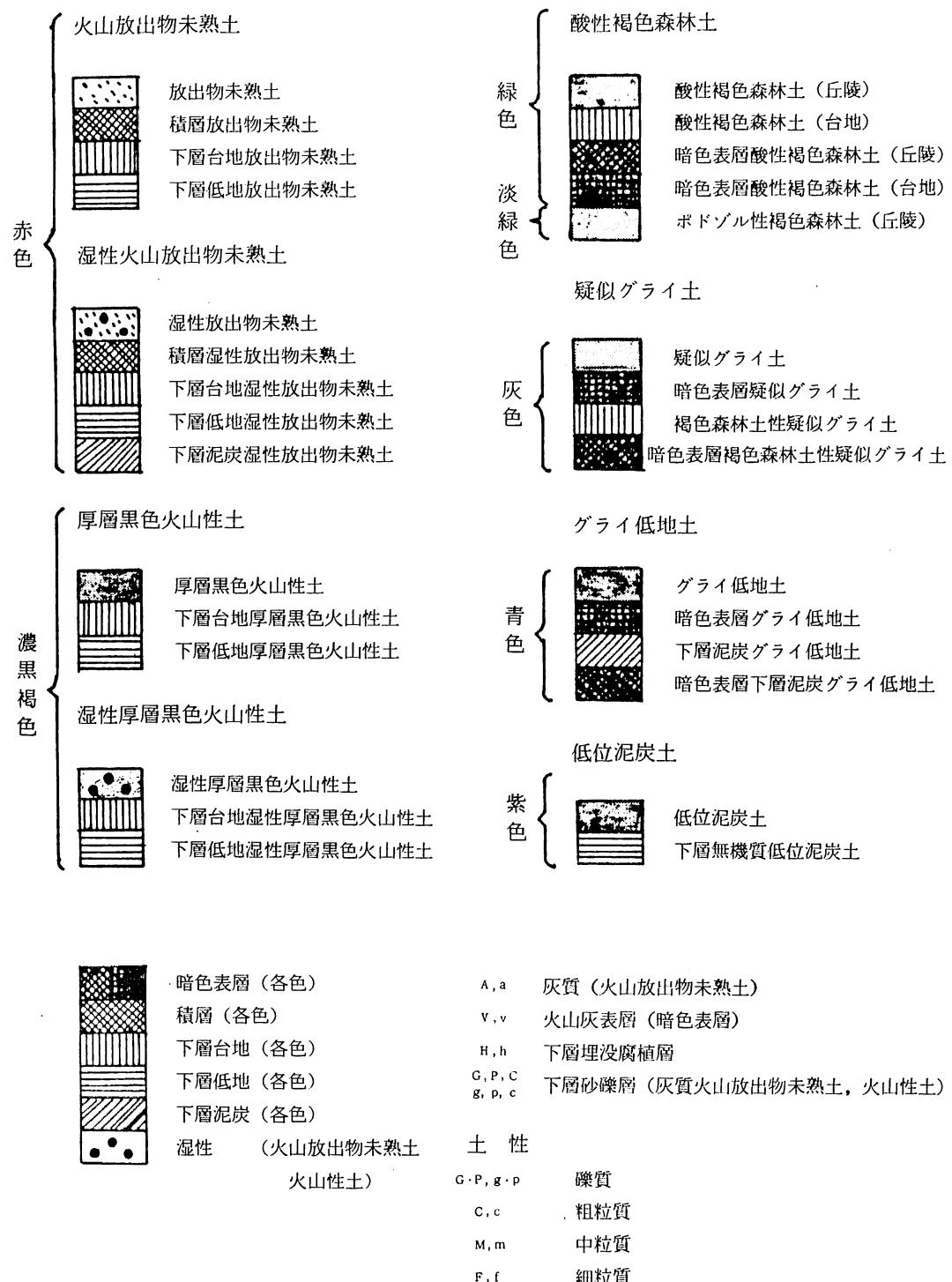
次に、中分類より詳細な土壤の性質も表現するために、それを細分した小分類（72種）を、中分類と同色のハッチなどの型によって区分した。この型は、たとえば、暗色表層は暗色のイメージを持たせるため、地色も彩色した格子、下層台地は高台、段丘の高さを意味させた縦じま、下層低地は平らな低地を意味させた横じまなどのように一定の型を定め、土壤の性質を理解しやすいように考慮した。

なお、小分類よりさらに低次の分類段階の性質、例えば、土性、累積火山灰土壤の埋没腐植層や下層砂レキ層の有無などについても、記号を付して表現することにした。土壤の分布には地域性が顕著なため、これらの記号は、周辺の同一土壤群はある地点のみで代表させ（この場合、大文字記号を用いて他と区別する）、土壤図が繁雑化しないように配慮した。

活用面と留意点

本土壤図には解説書を付し、上記のようにその編成に当っては、北海道の土壤分布を容易に概観できることのほかに、情報量の増大を図り、従来の小縮尺土壤図にはみられなかった細部の土壤性質の判定も可能とした。さらに、土壤分布とその生成因子との関連、土地利用および土地改良への活用、国土資源としての未利用地開発可能地、農地以外（市街地など）の土壤情報なども把握できるようにした。

（富岡 悅郎）



土壤図凡例（一部、8種の中分類と30種の小分類など）